

第二次区立小・中学校および区立幼稚園の適正配置基本方針（素案）に  
寄せられた意見と区の考え方について

1 意見の受付状況

意見募集期間

令和5年12月11日（月）から令和6年1月15日（月）まで

周知方法

ア ねりま区報（12月11日号）、区ホームページへの掲載

区民情報ひろば、区民事務所（練馬を除く）、図書館（南大泉図書館  
分室を除く）、教育施策課での閲覧、区立小中学生用タブレットパソ  
コンの「ブックマーク」で閲覧、児童館での閲覧

イ 関係団体への説明等

以下の関係団体に方針素案について、個別に説明等を行った。

- ・区立幼稚園長会、小・中学校長会
- ・練馬区私立幼稚園協会

意見件数

32件（24名）

うち、子どもからの意見6件（6名）

2 寄せられた意見の内訳（ ）内の数値は子どもからの意見数

項目	件数
第1章 区立小・中学校の適正配置	17（3）
第2章 区立幼稚園の適正配置	5（0）
その他	10（3）
合計	32（6）

### 3 寄せられた意見に対する対応状況 ( )内の数値は子どもからの意見数

対応区分	件数
意見の趣旨を踏まえ計画に反映するもの	0
素案に趣旨を掲載しているもの	5(0)
素案に記載はないが、他の施策・事業等ですでに実施しているもの	5(0)
事業実施等の際に検討するもの	14(0)
趣旨を反映できないもの	3(2)
- その他、上記以外のもの	5(4)
合計	32(6)

### 4 区民からの意見(要旨)と区の考え方

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
第1章 区立小・中学校の適正配置			
1	過小・過大規模の学校を調整することの意義は理解できるが、デメリットばかりに目を向けずに子どもたちを中心に考えた施策を望む。	過小規模化・過大規模化が進行すると、交友関係が固定化しやすくなる、施設面に余裕がなくなるなど、デメリットの影響が大きくなり、学校運営に大きな課題が生じることが危惧されます。児童・生徒の教育環境の充実を第一に考え、取り組んでいきます。	
2	素案には概ね賛成だが、財政的な事情をもっと明らかにしてほしい。23区は地方に比べ裕福ではあるが、福祉にかかる費用は増加している。子どもが減り高齢者が増えるのであるから、建設費を福祉に回すべきである。 学校の廃校の当事者は、長期的な視点で見ることにはできない。数値など客観的な視点で結論を出すべきである。	学校施設管理基本計画では、改築・改修にかかる今後の経費を試算し、児童・生徒数が減少する中、経費の負担を軽減しつつ、学校施設を適切に管理することとしています。今後、少子高齢化や人口減少が進み、労働力不足も懸念されています。区は、限られた財源、人材で効果的、効率的な行財政運営に努めていく必要があると考えています。 適正配置対象校の選定にあたっては、区の推計だけでなく、東京都が示す数値なども用いて検討します。	

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
3	<p>以前住んでいた地域では、通学距離の決まりがなかった。小学生は2キロくらい歩ける。区は人口も多いが、学校が明らかに多いため、近くに学校を設置することに拘らず、効率的に学校を設置することを求める。</p>	<p>児童・生徒の過大な負担にならないよう、通学距離の一定の目安を定め、学校の適正配置を進めていきます。</p>	
4	<p>様々なSNSで小規模校を称賛する記載等があるが、過小規模校で楽しめる子どもはごく一部だ。嫌な人から逃げられない。クラス替えがない環境を改善してほしい。</p>	<p>児童・生徒の教育環境の充実を第一に考え、適正規模の確保を目指します。</p>	
5	<p>クラスが複数あっても人間関係は固定化する。過小規模校は問題のある学校ではなく、個性のある学校だ。老朽化した設備の改築には賛成だが、廃校には反対である。</p>	<p>過小規模校には児童・生徒の交友関係の固定化だけでなく、多様な意見に触れることができない、部活動が制限されるなど、様々な課題があると考えています。また、校務分掌や学校行事などは、学校規模に関わらず概ね同じであるため、教員一人あたりの負担が増加する場合があります。</p> <p>適正配置を実施する際は、地域の皆さまの理解と協力を得られるよう努めていきます。</p>	
6	<p>過小規模校への入学を前向きに捉えていたが、急に統廃合の話があり驚いている。統廃合があると学校が荒れると聞き、子どもの情緒も心配である。お金の面だけを見た合理的な判断ではなく、人の心をもった判断を求める。</p>	<p>統合・再編を行う際には、児童・生徒の不安や影響をできる限り軽減するよう努めていきます。学校の適正配置は、校舎の改築に合わせた効率的、効果的な行財政運営への対応といった経費の面もありますが、将来を見通した児童・生徒の教育環境の充実が第一と考えています。</p>	
7	<p>適正配置を行う際は、小規模という理由で新しい校舎の学校をなくすのではなく、古い方から移してほしい。また、校舎の面積も考慮してほしい。また、学童の定員や教員不足、過重労働などの問題が起こらないように配慮してほしい。</p>	<p>統合・再編を行う際は、校舎の築年数や面積だけでなく、教室数、周辺環境、隣接校との位置関係なども加味して検討します。また、学童クラブのスペースや人員、教員の配置については十分に配慮します。</p>	

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
8	<p>大規模校よりも小規模校の方が低学年のうちから多様な大人の目が行き届く。子どもたちのために小規模校の価値を認めて存続させ、選択肢を増やしてほしい。</p> <p>また、小規模校の教員を増やし、先生方がゆとりをもって、よりよい教育を行っていただけるようにしてほしい。</p>	<p>過小規模化が進行すると、デメリットの影響が大きくなり、学校運営に大きな課題が生じることが危惧されます。将来の過小規模校・過大規模校・改築に課題のある学校を適正配置候補校とし、児童・生徒の教育環境の充実を第一に考え、取り組んでいきます。</p> <p>教員の定数は義務教育標準法に基づいて国が定めており、区独自に増やす考えはありませんが、教員の負担軽減を図るために、教員一人の一週間あたりの担当授業数を引き下げることや教員の増員などについて、国や都に要望しています。</p>	
9	<p>子ども一人ひとりを大切にすることを第一に考えてほしい。小規模校の良さもある。大規模校では、支援が必要な子どもに目が行き届かなくなるのが心配である。教師が足りないのは、教師の待遇が改善されないからだ。教育、子どもへの十分な投資を求める。教師が増え、豊かな教育環境がつけられるような施策も必要である。</p>	<p>国は、現在教員の処遇等を定めた給与等に関する法制的な枠組みを含め検討を進めているところです。区では、教員一人ひとりが心身の健康を保持し、誇りとやりがいをもって職務に専念できる環境を整えることで、学校教育の質の向上を図ることをねらいとして、平成31年3月に「練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進プラン」を策定しました。教員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、引き続き取組を進めていきます。</p>	
10	<p>途中から他の学校に転校することは、子どもにとって負担しかない。子ども一人ひとりに寄り添った教育をすべき。</p>	<p>統合・再編を行う際には、児童・生徒の不安や影響をできる限り軽減するよう努めていきます。</p>	
11	<p>地域から学校が減ることは、地域コミュニティの弱体化につながる。</p>	<p>学校は教育施設である一方で、避難拠点や地域交流の場など様々な機能を併せ持っており、地域コミュニティの拠点として重要な役割を担っています。適正配置を実施する際は、地域の皆さまの理解と協力を得られるよう努めていきます。</p>	

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
12	<p>区立中学校の進学者の減少は、少子化だけでなく私立中学校への進学者の増加も大きな原因だと思う。区立中学校の魅力のひとつは生徒の多様性にあるが、学力上位層が私立に流れ、その多様性は失われている。区立に進学する子どものほとんどは、経済力が中の下以下の家庭など、困難な状況に置かれた方が多いと推測している。</p> <p>統廃合を考えるよりもまず学校の魅力を高め、児童・生徒、保護者の需要に応えることを優先してほしい。児童・生徒が進んで通いたくなる学校を作してほしい。</p>	<p>私立中学校への入学率は22%前後で推移しており、この数値は10年以上変わっていないことから、私立中学校への進学状況が、区立中学校の進学者の減少につながっていると考えておりません。</p> <p>また、学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、区立中学校では、授業の改善や外部講師等の活用など、特色ある教育活動を展開しています。生徒は、教育活動を通じて、お互いに対話をしたり、主体的に活動する経験をしたりするなど、様々な人と触れ合い、社会性を身に付けていきます。</p> <p>今後も、区立中学校の魅力を高めていくよう努めていきます。</p>	
13	<p>練馬区を考える「適正配置」は、区民の考える体制配置ではない。人口増減率など基準にならない。学校を減らすことは災害が起きた時の避難所を減らすことでもある。区民と向き合った仕事をしてほしい。</p>	<p>学校の改築計画と整合を図りながら適正配置を実施していくためには、先を見据えた計画が必要と考えています。</p> <p>また、学校は教育施設である一方で、避難拠点や地域交流の場など様々な機能を併せ持ち、地域コミュニティの拠点として重要な役割を担っています。適正配置を実施する際は、地域の皆さまの理解と協力を得られるよう努めていきます。</p>	
14	<p>跡地・後施設の利用について、 学童クラブとしての利用 学習塾としての利用 子ども食堂としての利用 などを検討してほしい。</p>	<p>統合・再編によって生じる跡地・跡施設は、地域をはじめとする区民の皆さまや区議会のご意見を伺いながら、学校改築時の仮設校舎としての活用や、新しい行政需要に応える機能への転換など、最も効果的な活用方法を検討していきます。</p>	

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
<b>第2章 区立幼稚園の適正配置</b>			
15	<p>区立幼稚園の児童数の減少は、共働き家庭の増加だけでなく父母会の過重な負担も原因だと思う。PTAや父母会が親達の間関係のハラスメントや過重な負担を招いている。こうした問題が起きないように規制してほしい。</p>	<p>区立幼稚園では3園中2園が父母の会を結成し、園行事のお手伝いや父母の会主催の研修会の開催などの活動を行っています。今後、保護者の方々への負担を軽減できるよう、各園の実情を鑑みながら、園長会等で検討していきます。</p>	
16	<p>区立幼稚園の3年保育を実現してほしい。3歳児になると遊び場が減り、児童館や公園では3歳以下の子ばかりになる。また、区立幼稚園は遊びの自由度が高いと感じている。</p> <p>現在が2年保育のため、区立幼稚園への入園を諦めた方々が、3年保育になれば入園できるので、児童数も増加するのではないか。3年保育を実現して、遊び場が少ないこと、友達との交流が少ないことを改善してほしい。</p>	<p>今後の園児数の推移を踏まえた適正規模だけでなく、障害児保育や3年保育の実施など、区立幼稚園のあり方について令和6年度に検討委員会を設置し検討していきます。</p>	
17	<p>区立幼稚園の保育環境および教諭の保育の質が高く、園への信頼感や就園先として満足感を感じている。</p> <p>区立幼稚園は2年保育であることが、就園先の候補として一番ネックになってしまうと思う。また、長期休みの預かりなし、バス送迎なし、お弁当持参も私立幼稚園と比べたら厳しく思う保護者もいるが、3年保育にすることで入園希望者も増えると思う。課題もあると思うが、早期集団保育の良さは必ずあるので3年保育を実現してほしい。</p>		

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
18	<p>区立幼稚園は教育内容や園庭、保育室などどれも素晴らしい。無くすようなことはせず、広めていくべきだと思う。</p> <p>区立幼稚園の規模を縮小するのではなく、園児数を増やすべく3年保育や朝の預かり保育を取り入れる等を検討してほしい。</p> <p>ホームページやSNSなどを上手く利用し、保護者への周知に力を入れてほしい。</p>	<p>今後の園児数の推移を踏まえ、適正規模だけでなく、障害児保育や3年保育の実施など区立幼稚園のあり方について令和6年度に検討委員会を設置し検討していきます。</p> <p>ご意見を踏まえ、区立幼稚園の活動の周知強化等についても検討します。</p>	
19	<p>区立幼稚園の取組が、現状の質の高さはそのままに区民の実情に沿った形になること、将来の素晴らしい人材の育成に繋がることを願い、6点求める。</p> <p>3年保育の実施</p> <p>預かり保育(朝・夕・長期休み中)の実施</p> <p>給食の実施</p> <p>こども園化の実現</p> <p>支援の必要な子とそうでない子の混在した現在の教育の継続</p> <p>より良く広く認知してもらうための告知やホームページなどの充実</p>		
その他			
20	<p>学校の適正配置とともに学童の適正配置も重要課題である。古い学校にも早急に学童設置を実現してほしい。</p>	<p>学童クラブの校内化については、「ねりっこクラブ」の実施と併せて取り組んでいます。令和6年4月に新たに7校で「ねりっこクラブ」を開設し、全65校中59校に拡大します。全区立小学校での早期の実施に向けて取り組んでいます。</p>	
21	<p>体育館のエアコン設置を早急に行ってほしい。</p>	<p>全区立小中学校体育館への空調設備の設置は、令和7年度までに完了します。未設置校は設置までの間、熱中症対策を講じます。</p>	

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
22	<p>教員の負担軽減のために、教科担任制の拡大を検討してほしい。多くの教員と児童・生徒の関わりができ、相乗効果があると思う。</p>	<p>教科担任制については、東京都教育委員会で実証事業として都内の推進校 20 校を指定しており、本区でも 1 校が指定を受け、加配教員が配置されて事業を進めており、今後推進指定校を拡大していきます。今後も推進校での成果および課題を踏まえ、子どもたち一人ひとりに丁寧な指導ができるよう、より効果的な指導体制の在り方について検討していきます。</p>	
23	<p>数学は高校からでいい。</p>	<p>区立小中学校で指導する教科や内容については、文部科学省が公示する学習指導要領で定められており、小学校では算数、中学校では数学を指導することとされています。</p>	-
24	<p>区立小中学校は「学級数によって教員が配置される」とのことだが、児童・生徒数に対して教員の数が少なすぎる。学級数が少なくても多くの教員を配置し過重労働を解消してほしい。</p> <p>部活を地域のサークル化し、学校の規模に関わらず多種多様な部活を選べるようにしてほしい。部活動は本来教員の仕事ではないので、指導を専門のコーチに任せるべき。</p>	<p>教員の定数は義務教育標準法に基づいて国が定めており、区独自に増やす考えはありませんが、教員の負担軽減を図るために、教員一人の一週間あたりの担当授業数を引き下げることや教員の増員などについて、国や都に要望しています。</p> <p>部活動の地域移行については、生徒の発達段階やニーズに応じた多様な活動を行えるように、連携する団体や指導者の確保といった環境を整備する必要があります。現在、区では休日の部活動の地域移行に向けて学校関係者や関係部署と協議するとともに、教員、生徒および保護者の部活動に関わるニーズを把握するためにアンケート調査を実施しています。生徒や保護者の意向を踏まえ、円滑な地域移行に向けた検討を進めていきます。</p>	

NO.	意見の概要	区の考え方	対応区分
25	子どもが減っているのだから、練馬区が東京都にさきがけて少人数クラスを実現し、地域の学校を減らさないでほしい。	少人数学級の実現には、教員の増員だけでなく、限られた校舎スペースに普通教室を増設するなどの課題を解決する必要があります。法の規定に則り、小学校は段階的に35人学級、中学校は40人学級で編制しています。	
26	中学校の特別支援学級が少なすぎる。選択の余地がなく、定員も少ない。現在小学校の特別支援学級にいる児童が入れないのは問題である。特別支援学校ではなく、地域の学校で近所の友達と一緒に学びたい。増やす改善をしてほしい。	特別な支援を必要とする児童・生徒が増加していることは区も認識しています。 令和6年度に策定する特別支援教育に係る新たな方針において、特別支援学級の増設等について検討していきます。	

## 5 こ ども からの い けん よう し く かん が か た 子どもからの意見（要旨）と区の考え方

NO.	い けん がいよう 意見の概要	く かん が か た 区の考え方	たいおう 対応 くぶん 区分
だい しょう くりつしょう ちゅうがっこう てきせいはいち 第1章 区立小・中学校の適正配置			
1	がっこうどうし ちか たこう けんか 学校同士が近いと他校と喧嘩になる。	がっこう さまざま きょういくかつどう 学校は、様々な教育活動をつう ほか ひと きょうちょう 通じて、他の人と協調しながら、よりよく問題を解決するなどの「生きる力」を育む場となります。そのため、学校の友達だけでなく、他校の児童・生徒と関係きず い ちから はぐく を築きながら、「生きる力」を育んでいきましょう。	-

NO.	いけん がいよう 意見の概要	く かんが かつ 区の考え方	たいおう 対応 くぶん 区分
2	がっこう にんずう ともだち がっこう 学校の人数が友達の学校の2 ばいじょう あたら しょうがっこう 倍以上なので新しい小学校を つく 作ってほしい。	こ にんずう こんごへ 子どもの人数は今後減っていく よそく がっこう ことが予測されるため、学校を あたら つく むずか 新しく作ることは難しいと かんが く 考えています。区は、できるだけ こ にんずう 子どもの人数のバランスがとれる がっこう はいち おも ように、学校を配置したいと思っ ます。	
3	がっこう がっこう はんい 学区をなくしてほしい。学区の範囲 ちか ちゅうがっこう がおかしいから、近い中学校があ しん とお るのに信じられないくらい遠いところ かよ に通っている。	つうがくくいき ちいき こ 通学区域は、地域の子どもの にんずう つうがくきより ちょうかい じちかい 人数や通学距離、町会・自治会 ちいき かんけい かんが など地域との関係などを考えて せってい つうがくくいき 設定しています。通学区域がなく にゅうがくしゃ おお がっこう なると、入学者が多い学校は、 きょうしつ た かんが 教室が足りなくなることも考 えられるため、通学区域は必要と かんが 考えています。 とくべつ りゆう ばあい なお、特別な理由がある場合に していこうへんこう せいど は、指定校変更という制度があ ほか がっこう がっこう つうがく り、他の学区の学校に通学でき ちゅうがっこう ます。また、中学校では しんにゅうがくじ がっこう せんたく 新入学時に学校を選択できる せいど 制度があります。	
た その他			
4	こうそく せいとてちょう か 校則をちゃんと生徒手帳に書いて、なるべくゆるくして欲しい。	こうそく ないよう せいと ほごしゃ 校則の内容は、生徒や保護者の かんが かつ ちいき じょうきょう しゃかい 考え方、地域の状況、社会 じょうしき ふ まいとしみなお の常識などを踏まえ、毎年見直 ひつよう せいとそうかい す必要があります。生徒総会など きかい せいと みな の機会に、ぜひ生徒の皆さんが しゅたい こうそく ないよう 主体となって校則の内容を けんとう 検討してください。	-

NO.	いけん がいよう 意見の概要	く かんが なた 区の考え方	たいおう 対応 くぶん 区分
5	まいにちせきが がっこう 毎日席替えできる学校にしてほし い。	せきが おこな 席替えを行うことで、いろいろ ともだち はばひろ かなか な友達と幅広く関わることがで きます。一方、学習面では、 いっていきかんおな 一定期間同じメンバーで けいぞくてき いけんこうかん 継続的に意見交換をしたり、コ ミュニケーションを図ったりする こと必要であると考えていま す。	-
6	きょうか す がっこう すべての教科が好きになる学校に かよ 通いたい。	かくがっこう じどう せいと みな 各学校では、児童・生徒の皆さ んが自分から学習に取り組もう おも と思えるよう、様々な工夫をして います。問題が解けたときの嬉し さや友達と話し合い多くの意見 を聞くことの楽しさなどをたくさ ん感じて、全ての教科を好きに なって行ってほしいと思います。	-